

復帰41年 5・15 平和行進 八重山コース

並びに 復帰41年 5・15 平和とくらしを守る八重山地区集会

八重山支部執行委員長 上原邦夫

5月15日のこの日にこだわり、平日にもかかわらず計画した八重山コースでは、今年から実行委員会に連合沖縄八重山地域協議会が加わり「平和で安心な社会」を求める多くの労働者や一般市民と連帯し、実行されました。

自然豊かな「珊瑚の海」で知られる白保地区の白保小学校を午後1時半に出発し、約12kmの道のりを三線とアコーディオンの生演奏による「沖縄を返せ」の歌声と、基地撤去や日米地位協定の改定を訴えるシュプレヒコールで平和を求める思いをアピールし歩きました。さすがに平日とあって出発時の人数は少なかったものの、行進が進むにつれて途中から加わる人が増え、行進団はふくれあがり最終目的地の新栄公園には200名を超える市民が到着しました。

「平和とくらしを守る集会」には、仕事帰りの多くの市民も加わり250名余の参加者、さらに沖縄県議会議員の高嶺善伸さん、沖縄平和運動センター事務局長の山城博治さんも参加され、力強い連帯の挨拶をいただきました。

集会では、「4・28 屈辱の日」政府式典や、新基地建設・オスプレイ配備・先島への自衛隊配備等々、新たな「沖縄差別」への怒りと、「命どう宝」「基地のない沖縄」を求める沖縄の心を訴え、大会アピールと集会スローガンが採択されました。

最後に参加者全員で「がんばろう」を三唱し、平和とくらしを守る決意を高らかに宣言しました。

